

			次期計画					調査範囲 調査地点数	調査頻度	調査内容	調査時期
	欄内	欄外	H26	H27	H28	H29	H30				
大台ヶ原自然再生推進計画		次期計画									
大台ヶ原ニホンジカ特定鳥獣保護管理計画		第3期		第4期							
1. 緊急保全対策(第1、2期計画の継承)											
(1) 鳥類											
コマドリ調査	要検討						要検討	要検討	スズタケの回復によるコマドリの生息状況の変化を把握する。詳細は要検討。	6月上～中旬	
(2) 昆虫類等											
1) 地表性甲虫類	○			●			30mライン(1調査区あたり)、 8調査区	1回/5年	ビットフォールトラップ 種名、個体数	6月、8月、9月	
2) 大型土壌動物	○						要検討	1回/5年	ツルグレン法、ハンドソーティング法 種名、個体数	9月頃	
3) ガ類	○		●				1カ所に誘引(1調査区あたり)、 7調査区	1回/5年	ボックス式ライトトラップ 種名、個体数	6月、7月、8月、9月	
4) クモ類	○		●				10m×10m(1調査区あたり)、 8調査区	1回/5年	ピーティング法、スウィーピング法、シフティング法、石起こし等 種名、個体数	6月頃、9月頃	
2. 森林更新環境の場の保全・創出											
今後検討											
4. 大台ヶ原全体の変化に関する調査											
(1) 哺乳類											
1) 地表性小型哺乳類	○	○		●			20m×20m(1調査区あたり)、 約20調査区	1回/5年	シャーマントラップ、ビットフォールトラップ 種名、確認位置	6月頃、10月頃	
2) コウモリ類	○	○			●	●	任意の敷地点	1回/10年、連続 した2年間程度	カシミ網、ハーブトラップ 種名、確認位置	8月頃	
3) 中・大型哺乳類											
自動撮影	○	○					任意の敷地点	植生及び環境に 大きな変化が見 られた場合	自動撮影カメラによる写真撮影 種名 ※ニホンジカの生息状況調査の自動撮影カメラによる調査結果も使用	適宜	
痕跡	○	○					ライン: 約1km(1ルートあたり)、 5ルート		痕跡調査 種名、確認位置	適宜	
4) 樹上性小型哺乳類	○	○		●			ライン: 約1km(1ルートあたり)、 6ルート	1回/5年	巣箱による調査 種名、確認位置	5～10月	
(2) 鳥類	○	○			●		ライン: 約1km(1ルートあたり)、 7ルート	1回/5年	テリトリーマッピング調査 種名、さえずり個体の確認位置	6月上～中旬	
(3) 爬虫類	○	○	△	△	●	△	要検討	1回/5年	ルートセンサス 種名、確認位置 (ルートセンサスは●の年度に実施、△の年度は他調査に付随して実施)	5～6月、8～9月	
(4) 両生類	○	○	△	●	△	△	24区間	1回/3～5年	水系踏査 種名、確認位置、繁殖状況 (水系踏査は●の年度に実施、△の年度は他調査に付随して実施)	適宜、繁殖状況につ いては4～6月	
(5) 昆虫類等											
1) 昆虫相	○	○				●		1回/10年	目視・任意調査等(すくい網法や叩き網法、石起こし等) 種名、確認位置等	適宜	
2) 地表性甲虫類		○		●			30mライン(1調査区あたり)、 6調査区	1回/5年	ビットフォールトラップ 種名、個体数	6月、8月、9月	
3) 大型土壌動物		○					要検討	1回/5年	ツルグレン法、ハンドソーティング法 種名、個体数	9月頃	
4) ガ類									※「1. 緊急保全対策 (2) 昆虫類等 (3) ガ類」のデータを利用(ガ類は飛翔力があり相対的に移動能力が高いため、防鹿柵内のデータを用いる。)		
5) クモ類		○	●				10m×10m(1調査区あたり)、 6調査区	1回/5年	ピーティング法、スウィーピング法、シフティング法、石起こし等 種名、個体数	6月頃、9月頃	

●調査 △他調査に付随して実施